

# 「九州7県の経済の現状と発展戦略について」

平成21年7月29日

鎌田 迪 貞

## I 九州経済の現状

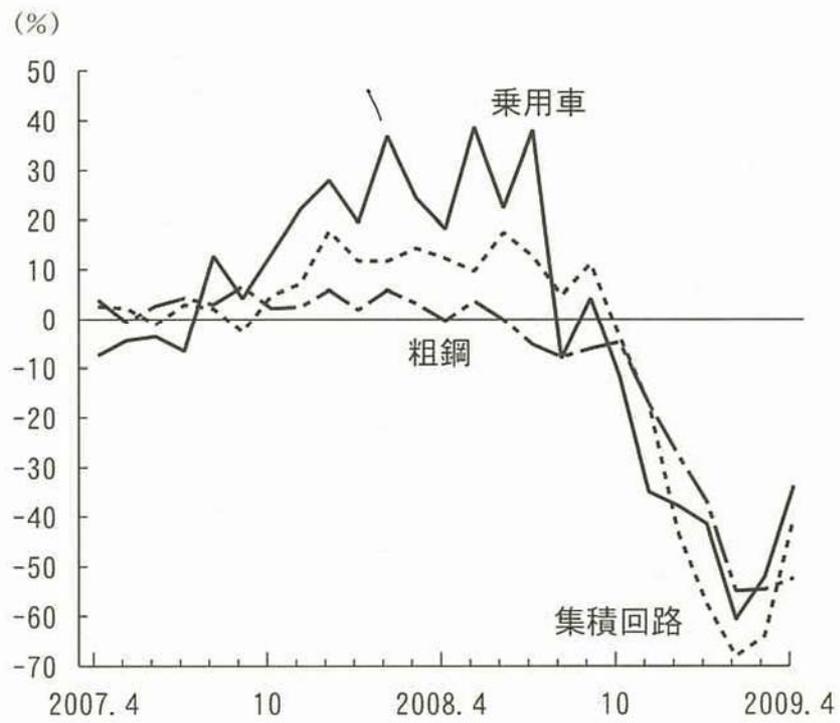
1. 九州経済の概要
2. 九州の産業の特徴
3. アジアとの交流

## II 自律的経済圏の形成に向けて

1. “九州は一つ”の取組
2. 九州ブロック発展のための課題

以 上

### 主要工業製品生産量（前年同月比）の推移〈九州7県〉



(出所) 九州経済調査協会「九州経済調査月報」平成21年6月

# I 九州経済の現状

## 1. 九州経済の概要

(億円, %)

産業・業種	生産額・出荷額	全国シェア	備考
第一次産業	11,171	18.5	2005年度GDP
第二次産業	98,019	7.2	〃
第三次産業	349,980	8.9	〃
農業産出額	16,215	18.8	2006年
漁業生産額	3,675	24.1	〃
工業出荷額	212,758	6.8	〃(4人以上)
1. 電気機械	37,428	7.3	2006年
(内訳) 集積回路	15,852	29.1	〃
2. 輸送用機械	36,605	6.1	〃
(内訳) 自動車	30,097	(台数10.2%) 5.1	〃
(内訳) 造船	6,347	22.0	〃
3. 食料品	24,877	11.1	〃
4. 一般機械	16,966	5.1	〃
5. 鉄鋼	15,413	8.3	〃
6. 飲料・たばこ・飼料	14,657	15.2	〃
7. 化学工業	14,638	5.6	〃
8. 金属製品	9,367	6.5	〃
9. 窯業・土石	8,106	10.5	〃
10. ゴム製品	4,061	12.3	〃

注) 自動車は二輪を含む。

(出所) 九州経済調査協会「図説九州経済2009」より作成

## 2. 九州の産業の特徴

### (1) カーアイランド

○日産、トヨタ、ダイハツの進出と部品工場の進出や地元企業の参入、さらに自動車関連の設備増強投資が進み、生産台数 100 万台を達成

(全国シェア 06年：10.2% → 08年：11.2%)

### ○課題

#### ①部品の地元調達率の向上 (50%→70%目標)

- ・1次サプライヤーは進出組が中心：  
完成車メーカーへ高機能部品（エンジン、電装、駆動、懸架系部品）を納める
- ・地元系部品メーカー340事業所：  
2次・3次サプライヤーとして裾野を担うが、プレス、切削、板金、溶接、樹脂成形が中心で、高機能部品向け熱処理、メッキ、鋳鍛造、塗装などを下請できていない。これが地元調達率 up のネック
- ・高機能部品は、中部・関東地方の自動車・部品工場から搬送、調達
- ・搬送コスト vs 地元での開発・生産コスト（生産台数に依存）の比較選択の問題  
(アイシン九州は地元中小企業 40社と連携を組み、中部から搬送されていた部品を九州で作ることに成功)

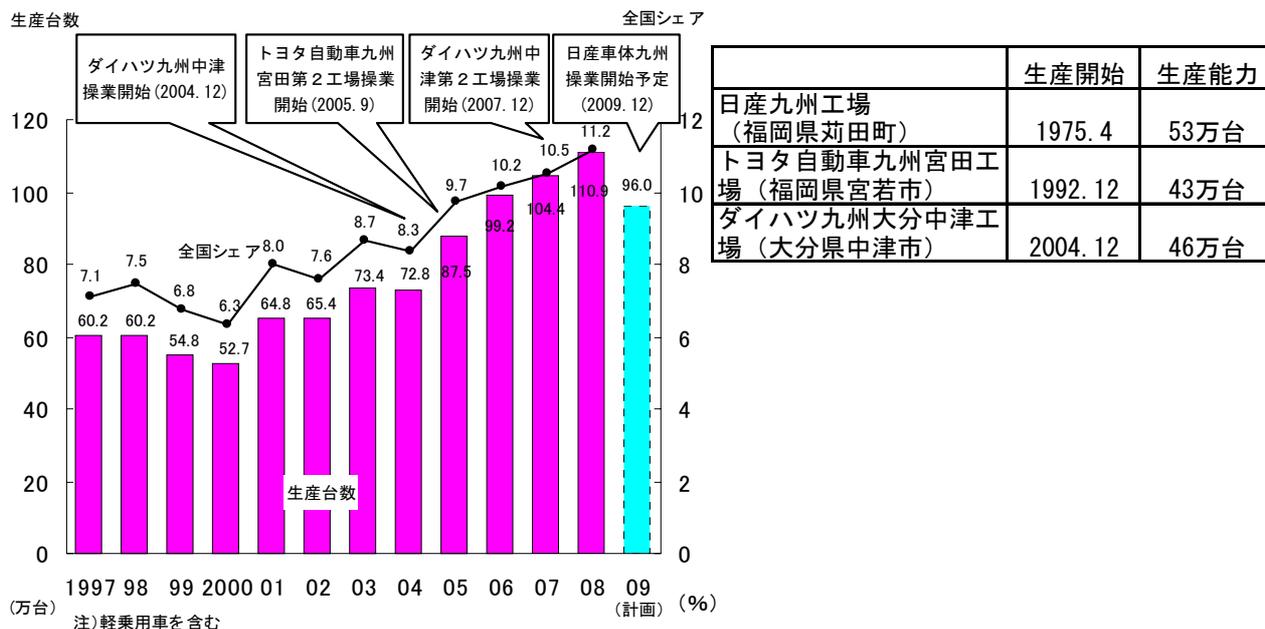
#### ②環境対応と競争力向上のため、HV化・EV化が急務

- ・政府は、自動車重量税・取得税減免により環境対応車の普及促進を図る
- ・トヨタはマツダとHV技術提携、日産はHV車の自社開発を加速  
トヨタ自動車九州は、HV基幹部品の生産能力を倍増
- ・米国、韓国もHV参入表明。欧州勢も10年以降にHV車投入予定

#### ③研究開発機能の強化

- i) トヨタ自動車九州が2010年代前半、宮田工場敷地内に車体設計拠点を新設予定
- ii) ダイハツ九州が2010年、九大隣接地に車体設計・開発センターを新設予定
- iii) カーエレクトロニクス拠点化構想
  - ・07年7月、北九州市に産学官の研究開発組織「カーエレクトロニクスセンター」を設立。エンジン、サスペンション、ブレーキ等自動車の機構部品制御にエレクトロニクスを応用する研究を推進
  - ・09年4月、北九州大、九工大、早稲田大が連携大学院を開講。産業界のエンジニア等を招聘。技術革新を主導する技術者養成を目指す

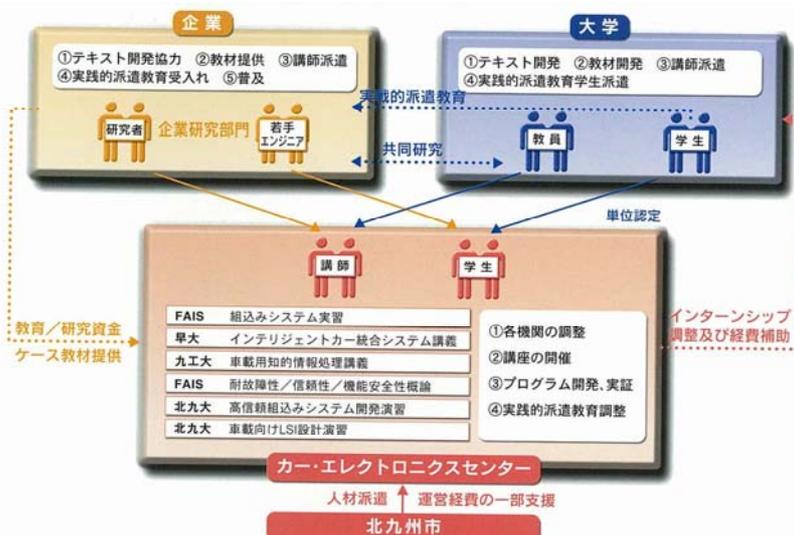
◆九州の乗用車生産台数の推移及び生産能力



◆自動車部品の設計・開発関連企業の九州進出 (2008年8月現在)

社名	進出時期	進出場所	内容
トヨタテクニカル ディベロップメント	2008年8月	福岡市博多区	車載用組込みソフト開発
アイシン・コムクルーズ	2007年3月、7月	福岡市博多区、 北九州学研都市	車体周りソフト開発
デンソーテクノ	2007年9月	福岡市博多区	車載用電子部品開発
エヌシーエス (日産車体子会社)	2008年4月	福岡市博多区	生産管理ソフト開発

◆カーエレクトロニクス拠点化構想 (イメージ)



## (2) シリコンアイランド

### ○ I C の高付加価値化

- ・生産量は全国シェア約 20%、生産額は全国シェア約 25% (04~08 年)
- ・家庭用ゲーム機向け LSI など高付加価値化が進展
- ・HV車、ハイテク家電、太陽光発電向け「パワーデバイス」に期待

### ○ 産業集積の状況

- i) 大規模組立工場の集積 (ウエハー17 工場)
- ii) レベルの高い要素技術を持つ中小企業の集積 (322 社)
- iii) I C 設計 (120 社)
  - ・最大は、NEC マイクロシステム熊本 (デザイナー500 名)
  - ・福岡市、北九州市にデザインハウスが多数立地
  - ・優秀なエンジニアを採用しやすいことが立地要因
- iv) 福岡、北九州の「システム LSI カレッジ」において高度 IT 人材を養成
  - ・08 年は延べ 1,300 名の技術者を輩出

### ○ 課題

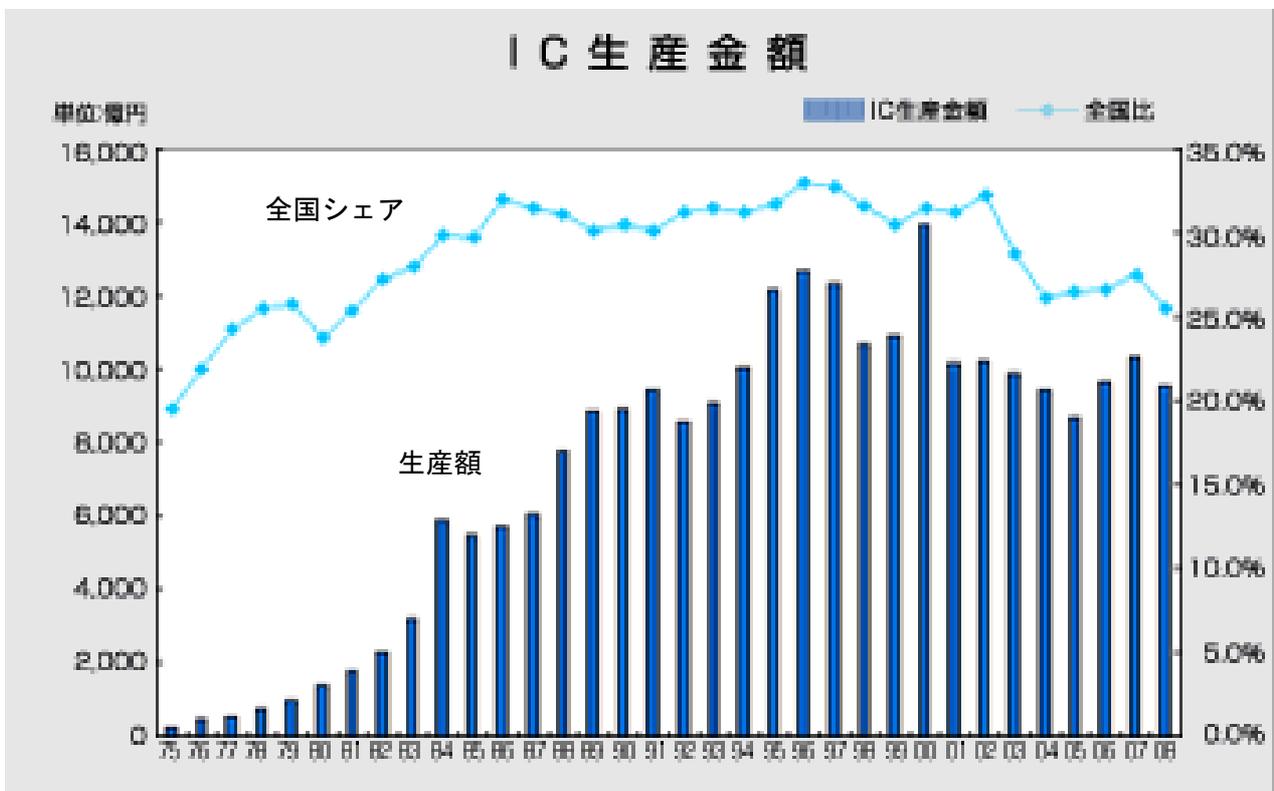
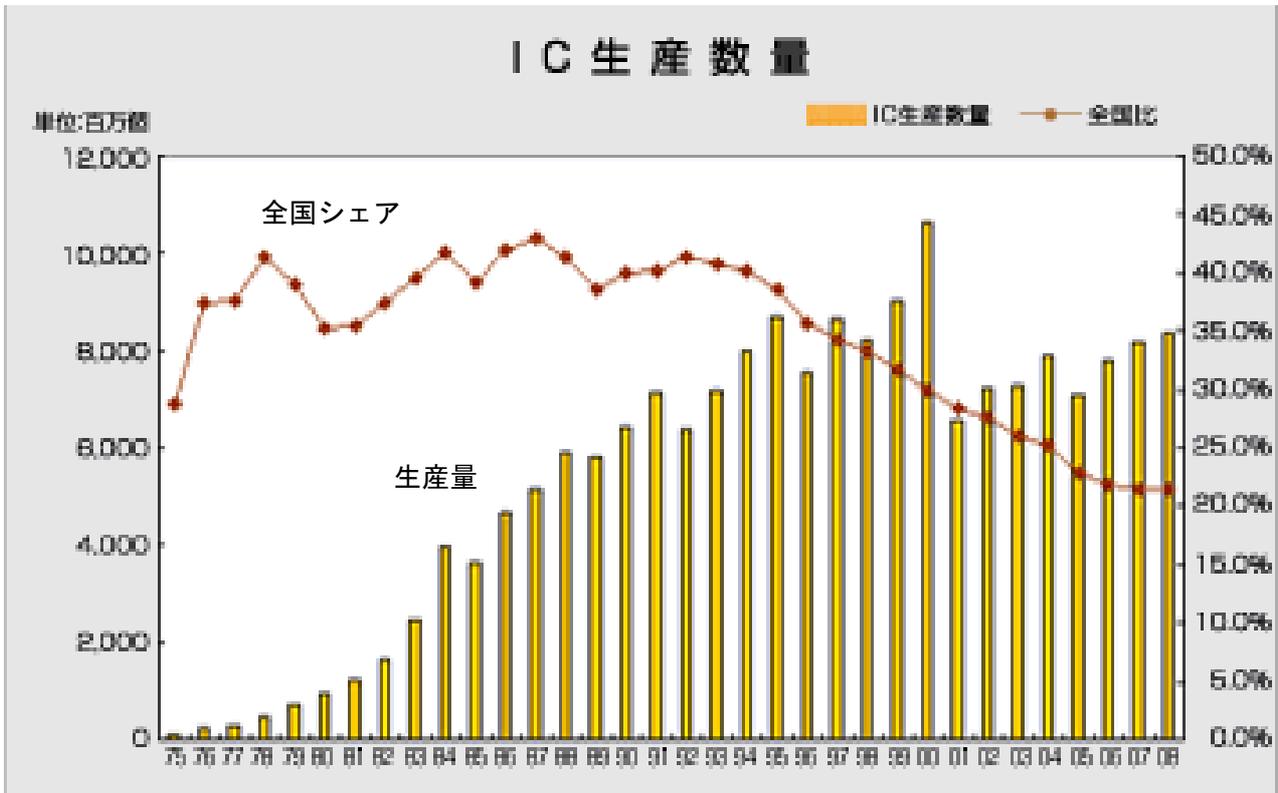
- ・日本：IC の製造装置、露光装置 (エコン、キャノン)、ウエハーを切断するスクライバー (DISCO 社) や素材 (先端素材) の分野で強い
- ・九州：実装分野、装置、モジュール、部品などの技術レベルが高く、現状ではアジアの中で精密装置や部品作りで優位に立つ  
半導体関連産業には中小企業が多いが、これらがネットワークを形成し、海外、特にアジアでビジネス展開することが九州半導体の生き残る道
- ・海外のキャッチアップ：  
韓国では、現代自動車やサムスン電子など韓国 10 社以上が提携し、次世代自動車向けの高機能半導体の共同開発に乗り出す (開発費用の半分を韓国政府が補助) など、先行するルネサステクノロジや NEC エレクトロニクスなど日本メーカーを追撃する動き

## (3) 産業融合 (自動車、半導体、鉄鋼、化学)

○自動車・半導体が、鉄鋼・化学の高付加価値化を牽引 (薄板、ファインケミカル)

○自動車を中心とする産業融合 (コンプレックス) が、九州経済浮揚の原動力となっている

◆九州の IC 生産の推移（上：数量ベース、下：金額ベース）



(出所) 九州経済産業局

#### (4) 食糧供給基地からフードアイランドへ

一次産品主体の“食糧供給基地”から、九州域内のフード関連ビジネスの相互連携による高付加価値化を進めた“フードアイランド”へ

##### ①農業

九州農業の生産額 1.6 兆円（全国シェア 18.8%）は食糧供給基地として重要

##### ○問題点

- ・耕作放棄地 13% 5.7 万 ha（全国の 24.4%）
- ・原因は農業就業人口（05 年 51.9 万人）の減少  
（過去 30 年間に△61.1%、15 年間△43.1%）と高齢化（05 年 65 才以上 55%）

##### ○生産者を如何に確保するか

- ・農業生産法人の確立、一般企業の農業への参入促進

##### ○国際競争力強化と、経営として可能な農業のために

- ・農地の集約、大規模化による生産性向上
- ・域内フード関連ビジネスとの連携による高付加価値化
- ・安全と高品質を売りに輸出（東アジア統一の検疫基準が必要）

##### ②食品産業

##### ○農商工連携による生産性向上、高付加価値化、販路開拓

##### ○目標

- i) 安全性の向上 ii) 生産技術の向上 iii) 新たな加工食品の創造
- iv) 農水産物、食品の高付加価値化 v) 循環型社会への対応

#### (5) 観光産業

##### ○九州地域戦略会議のもとに九州観光推進機構を設立（H17.4、九州7県＋経済界）

##### ○官民で九州一体観光の振興に取り組む

- ・スタッフ 23 名。年間予算 5 億円。“感動がある。物語がある。九州”
- ・県境を越えたテーマ別観光 150 ルートを開発

##### ○観光客の動向

- ・観光消費額は、約 1.8 兆円（01～06 年横ばい）
- ・宿泊客数（外国人含む）は、07 年：3,270 万人→08 年：3,240 万人とほぼ横ばい  
も、韓国人など外国人宿泊客が落ち込む
- ・中国富裕層クルーズ船の寄港誘致、銀聯カード使用可能店舗の拡充を図る

## ◆九州の農業生産法人数（2008年）（単位：社）

	全国	九州	対全国シェア
農業生産法人	10,519	1,697	16.1%
うち株式会社	832	170	20.4%

(出所) 九州農政局「九州食料・農業・農村情勢報告」

## ◆農産品輸出会社の概要

社名	福岡農産物通商（株）
設立	2008年12月
資本金	7,955万円（JA、福岡県、九州電力、JR九州、西日本鉄道等の出資）
主な取扱品目	いちご（あまおう）、みかん、ぶどう、柿、なし、もも、キウイ、緑茶、野菜（春菊、水菜等）、畜産物（鶏卵等）、加工品（柿チップ、豆乳等）など

## ◆農商工連携、建設業の農業参入の先行事例

社名・場所	概要
霧島工業クラブ (宮崎県都城市)	産学官の連携によりラッキョウの自動加工装置、畜産糞尿の浄化装置を開発
薩摩酒造（株） (鹿児島県枕崎市)	「さつまいも」の加工に伴う二酸化炭素を活用し、動脈硬化や老化を抑制する高機能食品の共同開発を鹿児島大学や地元企業と実施
(株) 江藤製作所 (大分県大分市)	焼酎製造の大型発酵タンクの開発製造
(株) エルム (鹿児島県加世田市)	オクラの自動選別機、害虫の数をセンサーで計測する装置などを開発。農産物の選別や包装など、農作業省力化機器の開発に経営資源を集中することで新市場を開拓
建設業A社 (宮崎県)	ハタケシメジを工場で人工栽培。日本で唯一の大量生産に成功。将来的には生産高50億円を目指す
建設業B社 (鹿児島県)	サツマイモ栽培と冷凍焼きもの商品化により、全国に通信販売

## ◆九州の食料品製造業（2006年）（単位：億円、千人）

	全国	九州	対全国シェア
出荷額 (A)	226,775	24,877	11%
従業員数 (B)	1,093	137	13%
生産性 (A/B)	207.5	181.6	

(出所) 工業統計表

## (6) 環境関連ビジネス

- 国はゼロ・エミッション推進と環境関連ビジネスの育成を目的に、全国 26 ヶ所のエコタウン事業を承認
- 九州のエコタウンは、北九州市、大牟田市、水俣市の 3 ヶ所
  - ・ 3 地区とも、かつて公害汚染の特別ひどかった地域だが、公害克服の経験を活かし、汚水浄化、大気汚染防止、土壌改良、ゼロ・エミッションなどの実証研究や、自動車、家電、ペットボトル、建設廃材などのリサイクル事業が盛ん
- 特に、北九州エコタウンには 20 社以上のリサイクル関連企業・研究所が集積、先進モデルとして内外から注目されている

## (7) 新産業の育成

- 九州の既存産業や地域資源を活用した新産業の育成
  - ・ 太陽電池、燃料電池、水素など次世代エネルギー産業
  - ・ 機能性食品、医療用ロボット、介護用ロボットなどライフサイエンス分野
  - ・ 情報サービス産業の振興、デザイン開発の推進

(参考 4)

### ① 太陽電池トピックス

- 九州には薄膜型の太陽電池メーカーが 4 社集積。3 年後には生産能力が約 4 倍に

#### ◆九州の太陽電池製造メーカー 4 社の投資動向

社名	場所・操業	現在の生産能力	増設計画と累計投資額
三菱重工業 (株)	長崎県諫早市 02 年 10 月操業	約 68MW/年	・ 09 年までに約 128MW/年 (約 325 億円) ・ 12 年までに約 250MW/年
昭和シェルソーラー (株)	宮崎県宮崎市 07 年上期操業	約 20MW/年	・ 09 年上半期に約 80MW/年 (約 200 億円)
富士電機システムズ (株)	熊本県玉名郡南関町 06 年 11 月操業	約 40MW/年	・ 11 年度に約 150MW/年 (約 440 億円)
(株) ホンダ・ソルテック	熊本県大津町 07 年 10 月操業	約 27.5MW/年	・ 約 27.5MW/年 (約 70 億円)
合 計		約 127.5MW/年	・ 約 507. 5MW ・ 約 1,035 億円

#### ○九州に立地する太陽電池メーカーの特徴

- ・ 結晶シリコンを使用しない薄膜系太陽電池の生産が中心
- ・ いずれも家電メーカーではなく新規参入組 (関西地区は家電メーカー中心)
- ・ オイルショック後約 30 年の研究開発の末に、初めて本格的な量産ラインを新設
- ・ 三菱重工業のプラズマ発生技術など、得意技術を生かした独自開発の製造設備を保有

② 次世代エネルギー産業トピックス

項目	内容
水素	<p>○福岡水素エネルギー戦略会議（04年8月設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員：546企業・機関（09年7月現在）</li> <li>・ 研究開発、人材育成、社会実証、世界最先端の水素情報拠点の構築、新産業の育成・集積に取り組む「福岡水素戦略（Hy-Lifeプロジェクト）」を推進。</li> </ul>
燃料電池	<p>○水素燃料電池の実用性検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡県前原市で4年間にわたる燃料電池の実用試験を開始。150世帯に設置した家庭用燃料電池からのデータ取得・検証を実施（100世帯を超える実証試験は世界初）</li> </ul> <p>○水素エネルギー製品研究試験センター（2010年3月、前原市に完成予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小、ベンチャー企業が開発した水素関連製品の試験・検査等を行う。</li> </ul>

③ ライフサイエンストピックス

項目	内容
機能性食品	<p>○(株)東洋新薬</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機能性食品・化粧品等の受託製造、原料、素材、発酵、培養技術の研究・開発からコンサルティングや商品開発、マーケティング支援まで一貫実施。</li> <li>・ 地域の伝統を活かした技術で高機能素材を開発。</li> <li>・ 特定保健用食品の許可取得数日本一。</li> </ul>
介護用ロボット	<p>○ベータ国際ロボット開発センター（09年5月開設、福岡県宗像市）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療や介護、生活支援分野のロボットの研究、開発</li> <li>・ 国内外の大学や研究機関とベンチャー企業が連携した全国初の施設。早大、九大、九工大及びドイツ、イタリアの研究機関等10組織参加。</li> <li>・ ロボット製造ベンチャー企業「テムザック」（北九州市）を窓口に、企業や行政からの受託開発や研究プロジェクト発案などを実施。</li> </ul>
医療用ロボット 化学合成製薬	<p>○先端融合医療研究センター（09年7月、九大計画発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体の内側から手術する内視鏡ロボットや化学合成技術による製薬などの研究開発、臨床試験、治験までを一貫実施</li> <li>・ 国の先端イノベーション拠点整備事業に採択され、12億円の補助を受ける</li> <li>・ 田端三菱製薬、日立製作所、島津製作所、安川電機と連携。九大の医・薬・農・工学部の研究成果を集約、実用化を目指す</li> </ul>

### 3. アジアとの交流

#### (1) 外国人数

○九州の入国外国人数は、97年：40.4万人→07年：92.7万人と2.3倍に

○九州の留学生数は、00年：5.2千人→07年：1.2万人と2.4倍に

- ・域内就職率の向上が課題（約半数が東京、九州定着は4.1%）
- ・立命館アジア太平洋大学（別府市）では、九州最多の2,352名の留学生を受け入れているが、日本企業への就職内定者166人のうち九州は20名程度（07年）

#### (2) 貿易

○九州の貿易額は、97年：7.0兆円→07年：12.9兆円と1.8倍に（全国は1.7倍）

- ・特に中国輸出（電機、自動車、化学）が急増（九州9.6倍、全国4.9倍）
- ・輸入も伸びており（電機、化学）、アジアとの間で、高機能品を輸出し、汎用品を輸入する水平分業が進展

#### (3) 投資（07年までの累計）

○九州企業の海外進出件数は、859件（全国シェア3.4%）

○外資系企業への九州投資は、85件（全国シェア2.9%）

#### ◇アジアとの交流トピックス

##### ①アジアとの近接性を活かした高速海上交通

- i) 釜山—博多を2時間55分で結ぶ水中翼船が毎日約10便就航
  - ・日韓両国市民の日常的な交通手段となっている
- ii) 上海—博多を約28時間で結ぶ高速物流船が週2便就航
  - ・ほぼ一日での配達圏を実現

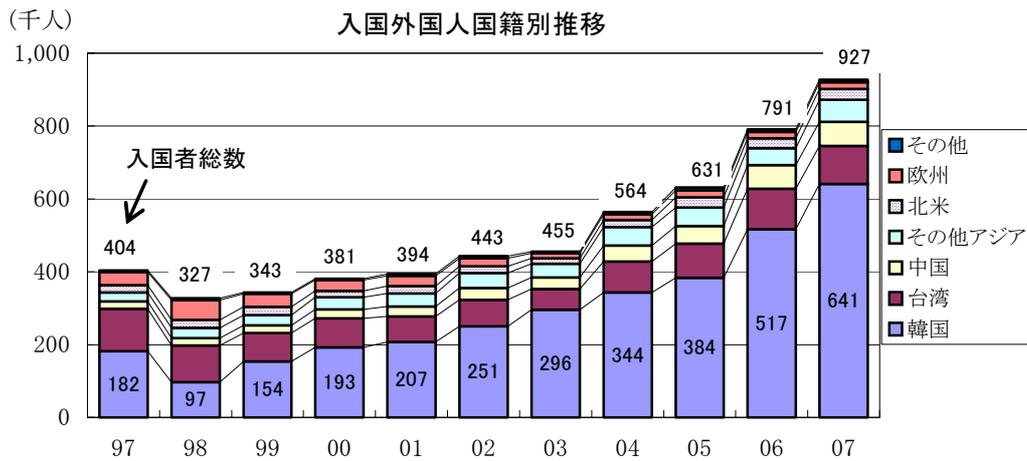
##### ②韓国と九州の共同による地域戦略づくり

- ・李明博大統領が提唱した韓国東南部と九州との「超広域経済圏」形成に向け、釜山市と福岡市が共同で観光戦略を構築、第三国からの観光客誘致事業を開始

◆九州の国際化について

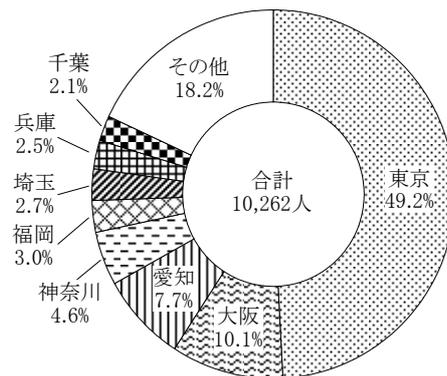
① 入国外国人

- 九州への入国者の9割以上がアジア国籍、特に7割が韓国人。
- 九州－韓国間の交通インフラの整備、2005年からの韓国人観光客のビザ免除、中国の団体旅行客向けビザ発給地域の中国全土への拡大（2005年7月）などが要因。



② 留学生

留学生の就職先企業等の都道府県別構成比（全国）



(注) 2007年実績  
(出所) 法務省入国管理局

## II 自律的経済圏の形成に向けて

### 1. “九州は一つ”の取組

#### (1) 九州地域戦略会議

- 九州地方知事会＋地元経済4団体（九経連、商工会議所、同友会、経営者協会）で構成
- 目的：「九州はひとつ」の理念のもと、地域の自立的かつ一体的発展に向けて、官民一体で具体的な施策を検討し、実践的に取り組む（規約第2条）
- 具体的取組：
  - ① 九州観光推進機構の設立（H17. 4）
  - ② 東九州自動車道の建設促進活動の推進
  - ③ 道州制九州モデルの策定（H20. 10）
  - ④ 2010年上海万博への九州沖縄8県、官民一体での出展決定
  - ⑤ 低炭素社会を目指す「九州モデル」の策定に向けて検討開始
  - ⑥ 夏季セミナーの実施
    - ・ 毎年8月に1泊2日、各県持回り開催、産学官から150名前後参加

#### (2) 九州経済国際化推進機構

- 九州経済産業局、九州7県、政令市、経済団体等で構成
- 九州一体の国際戦略の企画立案、事業実施
- 具体的取組：
  - ① 環黄海経済・技術交流会議（九州と中国、韓国で持回り開催）
    - ・ 局長会議、ビジネスダイアログ、学長フォーラム、全体会議
    - ・ 本年7月、第9回会議を中国煙台市で開催
  - ② ベトナムとの交流進展
    - ・ 友好協会設立、在福岡ベトナム総領事館開設
    - ・ ベトナム計画投資省と経済交流覚書締結

## 2. 九州ブロック発展のための課題

### (1) インフラ整備

- 産業の域内循環を強め、また観光資源をつなぐための交通インフラ整備
- 九州新幹線鹿児島ルート（縦軸）の開業効果を横軸に波及させる交通インフラ整備
- アジアへのゲートウェイ機能強化のための空港、港湾の整備
- 情報通信ネットワークの整備（08年ブロードバンド普及率：九州41.6%、全国54.9%）

### (2) 道州制実現への取組み

#### ① 地方分権の確立 …地方のことは地方で解決

- 道路整備、医師不足解消、保育園待機児童の解消など地域の実情に応じた施策実施

#### ② 九州圏の広域連携推進

- 行政の壁を越え、一国に匹敵する九州のポテンシャルを発揮することが重要

（連携不十分の事例）

- ・ 各県の公設試験研究機関等が県域に縛られ、広域的に十分活用されていない
- ・ ニュービジネス協議会やTLO（技術移転機関）による地元企業との産学連携事業が各県単位で実施され、マッチング機会を狭めている
- ・ 各県が農産品の認証制度を持っているため、ロットが限られ、九州統一ブランドをつくりにくい
- ・ RDF（固形燃料）化方式のゴミ発電はコスト高で失敗。直焚きの浮上式生ゴミ発電は、生ゴミの広域収集が認められず実現せず
- ・ 宮崎県の鶏糞発電所：県出資のため、燃料を隣県から得られず、県内遠隔地から高コストで調達
- ・ 知事会の政策連合：産業廃棄物税・森林環境税を導入も、運用は各県別のため、広域的に活用できず効果が上がっていない

### (3) アジアとの共生と技術移転

- 国毎に公的機関同士による調整の必要性
  - ・ 商習慣の違い（投資利益の本国送金、売掛金の回収、契約の遵守などに懸念）
  - ・ 知的財産権の保護についての法整備
  - ・ 交流会議のテーマの絞り込み（イベント化防止）
- 進出判断に役立つ情報収集の強化（九州地元企業の要望）
- 技術支援、技術移転の積極化（アジア各国から具体的要請）
  - ・ 中国・韓国から環境技術の移転要請  
（北九州エコタウンから中国青島市・天津市の「静脈産業圏」（中国版エコタウン）へのリサイクル団地整備のノウハウ提供）
  - ・ ベトナムから自動車・半導体の裾野技術、農業・食品加工・インフラ等の関連技術の支援要請

### (4) その他

- 支店経済からの脱却
  - ・ 支店の地域子会社化、工場への設計開発機能付与
  - ・ 中小企業の技術力向上とネットワーク化
- 情報サービス産業の育成
  - ・ 情報サービス、デジタルコンテンツ等の核となる企業の育成
- 福岡証券取引所の活性化
  - ・ 「九州 IPO（株式公開）挑戦隊」： 福岡証券取引所、九州ニュービジネス協議会、中小企業基盤整備機構が中心となり、福証への上場を専門家が支援
  - ・ アジアからの上場企業誘致

以 上